

中活 人口定着

氷見地区

(富山県氷見市)

- 計画期間 平成17年度～平成21年度
- 面積 232ha
- 交付対象事業費 832.9百万円
- 市人口 44,614人

ポイント 「観光客と住民が行き交うまちなかづくり」

地区概要 当地区は、商業中心地として栄えてきたが、郊外型大型店の進出、生活基盤整備の遅れなどにより、定住人口の減少が進行している。また、国道415号沿いの中心商店街には空き家が目立ちかつての賑わいが失われている。

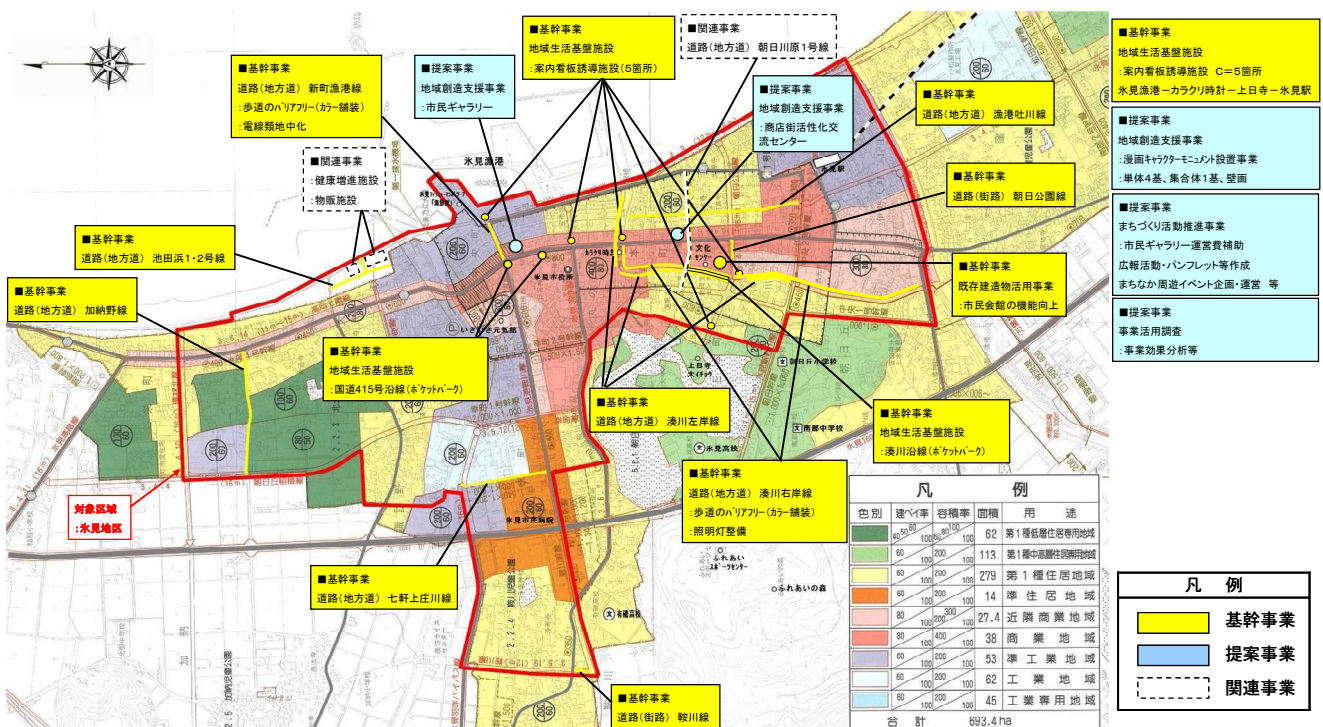
目標 中心市街地の生活基盤整備のほか、集客拠点とまちなかを結ぶ歩行者ネットワークを形成し、定住促進と来訪者の増加による賑わいの創出を図る。

指標 イベント開催を支援し来客数増加を目指すとともに、まちなかへの回遊性向上を図り中心商店街の歩行者数増加を目指すことにより、にぎわいのあるまちづくりを行う。

観光客数の増加	1,712人/日 (H15)	→	2,075人/日 (H21)
歩行者数の増加	112人/時 (H15)	→	78人/時 (H21)
イベント参加者の増加	142,500人/年 (H15)	→	188,691人/年 (H21)

事業内容 基幹事業 (751.1百万円) → 街路 (2路線、延長140m)、道路新設 (2路線360m)、歩道改良によるバリアフリー化 (2路線1,260m)、側溝改良による歩行空間の確保 (5路線3,490m)、ポケットパーク (788㎡)、案内看板誘導施設 (5箇所)、市民会館改修、電線類地中化 (延長140m)

提案事業 (81.8百万円) → 漫画キャラクターモニュメント設置、氷見市潮風ギャラリー、ギャラリー運営費、商店街活性化交流サロン、事業活用調査



完了地区 富山県

地区の現況と課題

当地区は、国の指定文化財「上日寺の大いちょう」や「朝日貝塚」等の文化財が点在し、また、全国的に有名な「氷見の魚」を活かした観光施設として「海鮮館」の建設や本市出身の漫画家「藤子不二雄[Ⓐ]」氏の人気キャラクターを活用したからくり時計やモニュメントを設置し、観光客の誘致を図っているが、観光客は立ち寄り型の利用がほとんどとなっており、市街地への波及効果が少ない状況にある。このため中心市街地内の観光資源を結ぶ歩行者ネットワークを形成するとともに、空き店舗を活用したイベント等の開催によりまちなかへの観光客の誘導を図る。

提案事業の特徴

まんがロードづくり

魚やまんがのキャラクターが設置されているまんがロードを、商店街だけでなく海鮮館周辺まで延長整備することにより、観光客の誘導及び回遊性の向上を図る。

氷見市潮風ギャラリー・まちなか交流サロンの設置

中心市街地にある空き店舗を利用して、人気漫画家の藤子不二雄[Ⓐ]氏の作品を展示する。まちなか交流サロンを整備し市民や来訪者に対する賑わいの拠点を形成する。

ギャラリー運営費補助

氷見市潮風ギャラリーのオープン記念イベントとして開催している「藤子不二雄[Ⓐ]まんが展」の開催費及びポスターやパンフレットの作成、管理を行っている潮風ギャラリー運営協議会、観光ボランティアの人材育成への支援。

計画策定プロセス

「氷見市都市再生整備計画」策定委員会の設置

都市再生整備計画策定にあたっては、まちづくりの専門家（金沢大学高山教授等）はもとより、当地区在住の商工会議所、商店街連盟等各種団体の代表、また、住民代表として地元自治振興会、婦人会代表者など13名からなる「都市再生整備計画策定委員会」を設け、3回にわたって諸施策の内容について検討を行った。

市民（各種団体）が主体のイベント等の継続と発展

当地区では、歴史ある「まるまげ祭り」「ごんごん祭り」や「祇園祭り」が行われているが、近年「食都キトキト祭り」や「ひまわり大作戦」などのイベントが行われ、また、平成13年に氷見市商店街連盟が主体となり、空き店舗を利用して「Laぶりー茶屋」を整備運営し、特産品の販売や作品展及び手芸等教室を開催するなど各種イベントを展開している。

こうしたことをきっかけに、当地区においては「まちづくり」の気運が高まってきている。今後は、こうした人たちと協力して中心市街地の賑わいの再生を図る。



▲ ハットリくんのカラクリ時計（湊川沿）
ハットリくん
（平成21年7月設置）▶



▼ フィッシャーマンズワーフ「海鮮館」



賑わう海鮮館



▲ まちなかサロンひみ（空店舗改修）
（平成21年9月OPEN 本町地内）



▲ 氷見市潮風ギャラリー（空店舗改修）
（平成19年10月OPEN 中央町地内）